

iPad を活用した活動報告書⑤

◆報告者氏名：原 道子 所属：横浜市立盲特別支援学校 記録日： 2013年2月27日

◆活動内容のタイトル 「コミュニケーションツールとしての活用と余暇支援」

◆活動内容の概要：

弱視・軽度難聴、知的障害を併せ有しており、また、視知覚を利用しての遊びを取り入れながら、興味・関心の幅を広げていきたいと考えていた。また、発音が不明瞭なため、自分の伝えたいことが周囲に伝わらず、ストレスになることが多く見られた。コミュニケーション手段のツールとして、かなトークのアプリを利用できないかと考え、学習に取り入れた。最新機器ということもあり、操作もすぐに上達し、いろいろなアプリで楽しめるようになった。

【対象児（群）の情報】

◆学年： 小学部4年 男子児童

◆障害名： 先天性白内障、知的障害、軽度難聴（50dB）、発達障害

◆障害と困難の内容

- ・発音が不明瞭なため、うまく周囲に言いたいことが伝わらない時がある。
- ・書字障害があり、書きたい気持ちはあってもうまく形にならない。

【活動目的】

◆当初のねらい

発音が不明瞭なため、周囲に伝わらない時があり、本人のストレスになる時があった。コミュニケーションツールとして、iPad を利用できないかと考え学習に取り入れた。

◆実施期間： 12月～2月

◆実施者：原 道子（担当教員）

【活動内容と対象児（群）の変化】

◆対象児の事前の状況

話したい思いがあるが、発音が不明瞭なため、周囲にうまく伝わらない時がある。相手にうまく伝わらない時は、ストレスになり怒ってしまう時もある。また、文字の習得も学習中であったが、机上では集中力が乏しく、長い時間取り組むことができなかった。

◆活動の具体的内容

（活用したアプリ）かなトーク、ゆびドリル（漢字1年生）
カタカナなぞり など

◆活動の内容と対象児童の変化

かなトークのアプリでは、入力された文字を読み上げるため、自分で打った後に確認することができ便利であった。また、文字をタップすると音声で続けてよみあげることができるのも、達成感を感じ効果的であった。

弱視であるため、キーボードの文字を、設定で大きくすることができ、パソコンを操作するよりも見やすく使いやすかった。カタカナなぞりでは、何回も練習を重ねる中で、字の形を覚え、ペンでホワイトボードに書くことができるようになってきた。



【報告者の気づきとエビデンス】

◆報告者の気づき

iPad で学習を行うことで、学習への意欲を高め、本人の自信にもつながった。今は、まだ入力の練習中であるが、かなトークを使用し、うまくコミュニケーションツールとして、利用できるようになると、

今までうまく伝わらずにストレスに感じて怒っていたことも少なくなってくるのではないかと感じた。

また、カタカナのなぞり書きのアプリを利用することで、机上では、集中して学習することができなかった児童も、持続して学習に意欲的に取り組めたことは非常に効果的であった。